



小学生が発見した 世界平和を実現する 方法

心
あ
っ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

NMCAA
NO3

小学生の作文からです

僕は小学校の5年生です。ツトムといます。お父さんは、僕に勉強のことはあまりうるさくありませんが、いつも繰り返し言うことが一つだけあります。それは、「ギブ・アンド・ギブだよ」というものです。お父さんは、「ギブ」とは英語で「与える」という意味だよと教えてくれました。写えて、また与える。わかたつたような、わからないような。なんとなく、困っている人に寄付をしよう」というような意味かな、と考えていました。学校の児童会で、赤い羽根の募金運動をやっていたのを見たからです。僕もお小遣いから50円を募金しました。その晩、お父さんに「今日、ギブ・アンド・ギブしたよ」と報告したら、「よかつたね」と言ってくれました。そして、こう言いました。「ギブ・アンド・ギブは、お金だけじゃないんだよ。白い杖をつけている人を見かけたら、お手伝いしましょうか」と声をかけるとか、公園に落ちていた空き缶を拾うとか、それを聞いて、ちよつと困ってしまいました。とてもそんなことはできない、と思ったからです。正直にそのことをお父さんに言うと、「もつと小さなことでもいいんだ。ほかの人に喜んでもらいたいという生き方だね」またまた、わかつたような、わからないような。ある日のことです。近くのスーパーにチョコを買に行きました。レジで

並んでいると、僕の前に並んでいた怖ろしいお兄さんが、「おい、ポーズ！」と見下ろして声をかけてきました。サングラスをかけ、耳には金色のピアスをしていません。ドキドキしていると、「子ヨコ1個だろ、先に行けよ」と言いました。緊張していたので、とっさに何を言われたのかわからなかつたけれど、そのお兄さんに背中を押されて順番を交代してもらったとき、なんだか嬉しくて身体が熱くなりました。お兄さんのカゴは山盛りいっぱいでした。僕は小さな声で、「ありがとう」と言うのが精一杯でした。そのとき、わかつたのです。ギブ・アンド・ギブっていいのは、百分がしてもらつたら嬉しいこと。人をにもしてあげることじゃないかな。となりの席のイチローは、僕が消しゴムを忘れたので貸してくれました。2階の教室の窓際でふざけて遊んでいて、ノートを下へ落としてしまつたとき、下を歩いてくれた6年生の男子がわざわざ届けてくれました。その日の給食の時間のことです。前の席のアヤコがミートボールを床に落としてしまいました。コロコロと転がりました。僕は、たまたま持っていたポケットティッシュでつまんで拾ってあげました。服も少し汚れたみたいだったので、「これで拭けよ」と残ったティッシュを差し出しました。べつに、アヤコのが好きでもないし、気に入らないうれいでもありませんでした。でも、こうしたら喜んでくれるかも、と思ったのです。その晩、お父さんに今日あつたことを話しました。天人の世界ではよくギブ・アンド・テイクと言うんだけど、ギブ・アンド・ギブはずつと助けつばなしなんだ。ツトムはそのアヤコって子に気に入られたいわけじゃないって言つたよな。

そういう気持ちから出た行いをギブ・アンド・ギブって言うんだよ」そして、そのお返しを期待しない小さな親切をする人のことを「アチ紳士」と呼ぶのだとも教えてくれました。もしも、世界中のみんなが、同じようにギブ・アンド・ギブしたらスゴイことになるな、と思いましたが、きつと、戦争なんて無くなつてしまふでしょう。その日から毎日が楽しくなりました。「アチ紳士」を探しているうちに、人の良いところばかりが目がいくなつたのです。すると、周りにいる人がみんな「いい人」に見えてくるようになりました。この発見も今晩お父さんに話そうと思つています。(Buzzuより)

編集後記

世界平和の実現
大人は難しく考えてしまつて、困難を感じてしまつて、でも本当はシンプルで当たり前のことをやることなのだを教えてもらったようです。
大人も紳士淑女として、格好良くなります。みんなが、楽しい人に見えることは、楽しいことうれしいことなのですね。